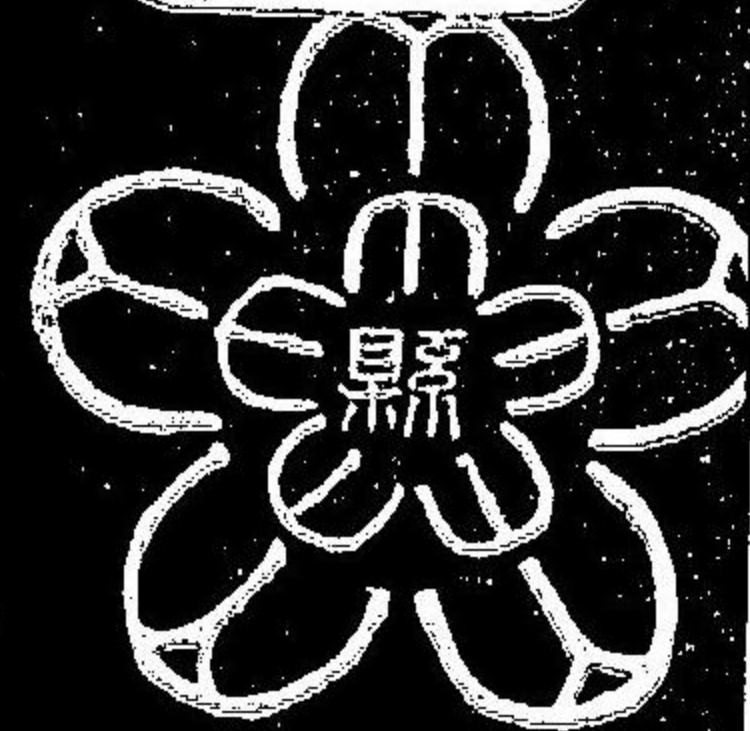


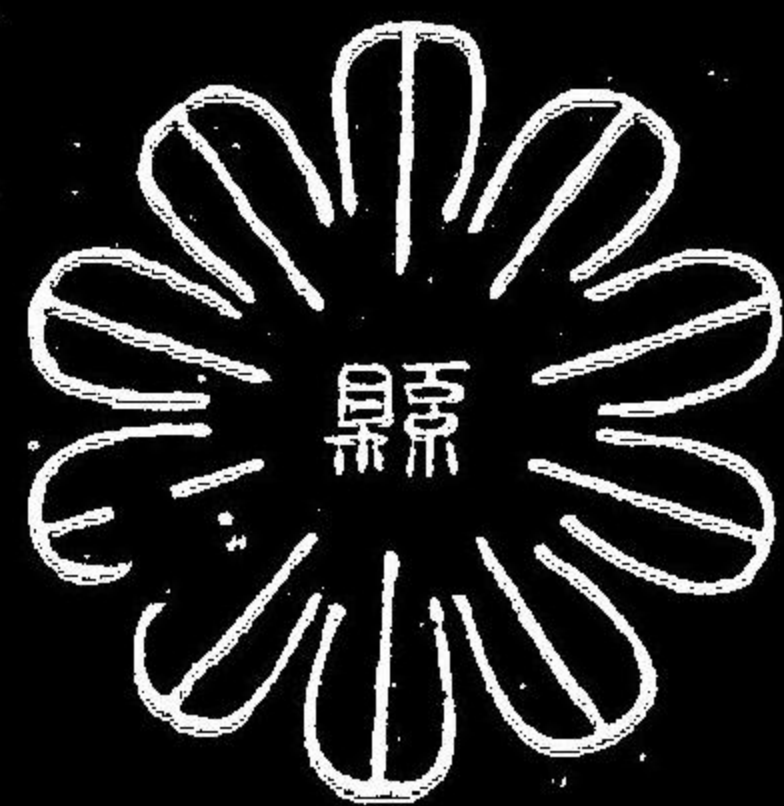
特72

123



御巡幸
啓

奉迎詠進集



301665-001-6

特72-123

御巡幸行啓奉迎詠進集

富山県

M42.12

DBD-0001

特72
123

緒言

明治十一年ノ 天皇陛下御巡幸ト本年ノ 皇太子殿下
行啓トハ本縣近時ノ二大盛事タリ當時縣民至情ノ溢ル
ル所和歌漢詩等ヲ詠進シ畏クモ 天覽及 台覽ノ榮ヲ
賜ハリタルモ 妙カラヌ今之ヲ蒐集シテ世ニ頒布スル
モノハ亦斯ノ盛事ヲ後代ニ貽サントスルノ意ニ外ナ
サルナリ。

明治四十二年十二月

富山縣知事官房

明治
42 12 22
內衣

明治十一年 天皇陛下御巡幸

御巡幸
詠進數

和歌

四十八首

俳句

百句

祝辭

壹章

御巡幸奉迎詠進

和歌

民草のなひるぬ里もなりのけり

權大講義 白旗 大林 富山

君の行幸の深き恵よ

久米賞 篤 同上

行幸あるこしの田面の頼母しく

かけ不す稻もみそなのすらん

近藤光普 同上

御車のみめぐりましてかこくも

こしの富山よけふの來ませり

治まれる御世もかしこき御車の

金岡勝任 富山

廣き惠を敷島のみち

中川家代 同上

科さうるこしの富山も大君の

もれぬ惠よあふそ嬉しき

安積信之 同上

例なれみ世といまむ萬代に

けふの行幸を傳へ仰きて

近藤光美 同上

明らけき御代のためしと家毎よ

行幸を祝ふ日の丸のいた

白旗大視 同上

越路なる行幸のよそひたひらけし

かへさもかくそ安らげくませ

白旗義禪 同上

くまからの嶮こき山も平らけく

君が行幸よ道ひらたけり

瓶山龍雄 同上

行幸あるここのうら浪かけまくも

畏き御代とぬる、袖かな

榎野安輝 同上

あま磯海の浪よ輝く日の御子の

錦のとたの御蔭をろかむ

君か世をなこの浦をのなこみつゝ

大槻一貫 富山

行幸の道よ立波もなし

藤岡愛 同上

秋津洲國てふくにを行幸まを

かゝる御代よも逢にけるかな

立花蔭隆 同上

とろくと越の長路もいとひなく

行幸ましまを御世を畏き

權中講義 山本正雄 同上

民草も露の恵にもるゝかと

おほし立ける行幸畏し

訓導 嵯峨賀壽 同上

ひらけゆく御世にあらはきは例なれ

けふの行幸を仰かさらまし

權中講義 山崎是寧 同上

あらたまの光にひたつ民草に

猶餘りけり君かめくみの

柳瀬邦彦 同上

むかしより例もまきかま出まして

此舟橋をわたらさむとは

山本千春 同上

立山や富山の里の秋風も

いとほしまさぬけふのかこさ

大君の越のみゆきは立山に

高木瑞枝 富山

ふりたけるより高く尊し

行幸あるけふをまつむし轡虫

勝森壽保 同上

驛路ことよさゆるすむし

民草はいやさかゆかむ大君の

青木恂譽 同上

いたらしまさぬ里しなけれは

玉鉾の道ひらけゆく世よすみて

訓導 不破重亮 同上

洩ぬ行幸にあふか嬉しさ

近藤光範 同上

海山を越路の果もやふしこかぬ

天津日嗣の影そ畏こき

虎のふき野へもひらけぬ道はあらし

龍の車の廻りもれねは

大君の恵みあまねく置きたま

露にうるほふ四方の民草

大久保 秀延 同上

かしこくも招く尾花の穂に出て

なれも行幸をまつ虫の聲

科さかる越の片隅も御惠に

權中講義 大内弘鷹 富山

もれぬ行幸を祝ふけふ哉

本多清之 同上

立山よふりたけること常夏に

君か行幸を仰かまほしき

稻垣つた 同上

瑞垣の久しきよゝを尋ねても

かゝる行幸の例しやはある

渡邊うら 同上

科さかる越に居ながら大君の

けふの行幸を拜む畏こさ

權少講義 高桑秀時 同上

いかにしていかに仰かむみこしちに

かゝる行幸の例しなけれは

少講義 古市之實 同上

有磯海の浪間に浮ふ鷗すら

此出ましをいはふこゑく

桐澤五郎 新川

みこしちや行幸ありその浦人は

山をなしてそけふを待ける

筒井與 平治

御代なれや賤かその子の族まで

ゆたかに仰くけふの幸ひ

小澤善四郎 泊驛

どかまかに野への千くさもはらはしな

行幸の道の錦と思へは

澤越小四郎 平民 澤波郡三日市村

あまかたや越の草よも拜めよと

玉の臺をいて玉ふらん

かけまくも畏き君の恵よて

開き玉ひし御世そめてたき

櫻井兼臣 平民 櫻町村副戸長

うち靡く錦のはたの影そひて

鄙のもみちの色まさるらん

桂井順平 同上 澤波郡今石助町副戸長

居なからにかゝる行幸を仰きつゝ

身よ餘りぬるけふの嬉しさ

新井四郎 同上

色もなき此山里の紅葉はも

けふの行幸の秋よあふかな

櫻井謙郎 同上 郡櫻町村

ねもひきや久しきよの秋をへて

けふ此里よ行幸せんとは

松波喜平 同上 郡福町村

例しなき御世そ畏き科さかる

ひなも行幸をけふ拜つゝ

朝烟たつるかまとの賑ひを

松尾雄三郎

平民 磯波郡今石動村

みまさんとの行幸成らし

西勝寺住職 青山祐了

磯波郡城生村

吹風も枝をならさて君か世の

深き恵よなひく民くさ

三輪照政

第五大區小十四 區戸長

畏しや我大君を久かたの

天田の宮よをろかみまつる

權中講義 尾山今民 富山

けふはこの富山のあたり 阿まはこの我家のあたり かしこくも 尋玉ふ

とゑたしくもとはせたまふと御車のめくまきませは里人はねしねか
けほしなはてよりむれくるのみか海人の子は綱引ひたすてやまをち
は眞柴かりさし磯路よりふもと路よりも尾花さけ秋萩しのき秋霧の
はれまをさたるか里のことつれつ、くれは町つ、き家ことよあま
市女らはひと市なせりあはれこのしける人草御めくみの露よはもれ
を穂よいて、花咲ゑみて出むかへ仰きよろこひ御ゆきをろかむ

中島壯五

磯波郡津澤町村

數ふれと二そち阿まり秋の日よいとこのをみとうちつれて参りの不
れる九重の大宮造り玉じきの庭の名のみよあれとてし葎とこへをう
ちまらひこはそもいのにつるたたち日つきの君のたまことかくあ
れますぞよよめせしひとやいのなるいのてくむかしの御代に立か

入ることはからむとちかひけることの葉くさのかすくを白露の身
 の玉くしげふたつある玉ひとつを世の爲にすて君をたもふ其甲斐
 いまはありそ海の濱の真砂のかすよりのもたほき恵みのかゝる世そ
 ふそたのごきさはかりかおとしの秋は民草の露の起臥野すゑまで行
 幸ときげはたらちねの母もろとめにうちむれて御車ちかくひさまつ
 き仰きかこむむよろこひつせはき袂よつみかねもらす聲さへ萬代
 をいはひまつれる手の舞も足のふみともしらざるもうれし涙にくれ
 は鳥あやごといまつひとなとかめそ

石上ふるき思は打はれて

けふ例なき行幸あふかむ

俳句

捧げはやあり磯の太刀魚一かしら	春	城	富山
日一月にさかぬある菊の匂ひ哉	愛		同上
御めくみの野山よみちて秋日和	常	力	同上
あらいそも花の、み世と成よけり	若	林	同上
けふこそはくもりのはれむ月の顔	玉	峰	同上
透とるる菊の匂ひやいはのまと	杉	圃	同上
恵まる、日かけのうれし野のにした	有	中	同上
神かせのふかぬ野はなし稻のあき	梅	溪	同上
みゆきまつけふの野山の錦かな	文	昌	同上

不むのりと日のかけうけて蕨すき	遊	月	富山
くさふかきくつ屋も菊の匂ひ哉	水	龜	同上
大まへは高きものなり軒の月	雪	遊	同上
行幸あるそこらゆたりの花のかな	東	江	同上
一さとや皆かよろこぶいねの出来	生	月	同上
洗あけて神よさしけむ米初穂	東	波	同上
谷々のもみちに匂ふあさ日るな	山	友	同上
羽をのして御代よろこぶや稻すゝめ	ち	ゑ	同上
菊の香のもれぬことなしひな都	曲	塙	同上
とりあへず神通の鮭や神饌よせん	昌	月	同上

戴た日のかけうれしをみなへし	北	女	同上
ひとをちよなひく廣野の薄哉	梅	原	同上
日の出を拜むところや野のよしき	可	丈	同上
稚子も手をひきあうてけふの月	旭	柳	同上
海かはの底まできよしゆき日和	可	壽	同上
野にあまみやまに餘るや月のてり	木	水	同上
日のめくみうけて野山のにしきかな	元	壽	同上
長月や行幸を拜むけふの無事	夏	林	同上
千代や千世御代なかがれと松の葛	金森傳平		平民 泊町村
譲りあうて田をかる畔や御世の秋	同	人	

日のかげや眞砂きらめく稻の中

小澤篤

平民
泊町村

小田もりもあつく管ふくいほり哉

金森立器 同上

みのりよし瑞穂よしるきいねの秋

同人

天つ日にあふやうきゝの龜のあさ

同人

民くさのめくみをしるや千々のあき

高橋葆清

平民
射水郡高岡三番町

かけまくも神代をいまよ稻の秋

廉夫 富山

秋の日やかゝる行幸のありそ海

茶丈 同上

立山も雲の下なり秋のそら

曲山 同上

あふきふし拜む朝日や秋の山

李水 同上

日のめくみおなる、よしの花野哉

適哉 同上

くもりなきよや玉敷の露のよは

乙外 同上

おし出した秋の光や月ひとつ

三桃 同上

みくるまのめくみの音や竹の春

守行 同上

うれしさや賤か軒さへ菊ををる

たみこ 同上

家内中拜みに出るや秋の月

萬外 同上

大御代や不に穂のさかる今年稻

良月 同上

行幸まつけふや明治のとしのあき

一久 同上

霧はれて日かけの高き天氣哉

有海 同上

日の恩をうけぬものなき秋野哉

雨静 同上

菊咲てさひしき秋もすれけり

義山 同上

玉たれの恐れもあらずきりくす
 日のかげのもれぬ野山のけしき哉
 萬代や草は花咲木はみのる
 めくる日にさきしたかふて菊の花
 ためしなき有磯つゝきや秋日和
 たたやかに風もならさす稻の浪
 この秋はさきてうれしき刈りかな
 輝く日うけて艶し草野かな
 あしはらのやわた皆ふく朝日かな
 みちのある限りは菊の匂ひかな

誠 月 富山
 雨 礎 同上
 由 來 同上
 一 好 同上
 東 章 同上
 露 角 同上
 氷 清 同上
 芦 水 同上
 大 洲 同上
 悠 子 同上

落穂までたしいた、くや日の恵み
 賤か屋も戸さ、ぬあきの日和かな
 ふしてまつこ、うもたのし月の影
 秋なれやみのるものみな日の恵み
 荒海のなみさへた、き月のあさ
 れしなへて下草匂ふきくにつゆ
 照みちてやのめくとしや早稲晩稲
 はれわたるこしちのきりや日の匂ひ
 昇る日の光や四方に野のよしさ
 ありかたき日和やさくの入重かさね

一 正 同上
 霞 柳 同上
 三 亥 同上
 いよ子 同上
 方 水 同上
 千 種 同上
 一 二 三 同上
 一 有 同上
 雪 莊 同上
 正 辰 同上

八十六歳

惠む日にうつむくはかりみのり稻	松	月	富山
残りなく天照る月の惠みかな	澗	菲	同上
むらかるやありその秋の浦千鳥	國	遊	同上
日も月もめくらる、なり露のうへ	依	水	同上
鳳凰も君か世に出ん竹の春	正	富	同上
千歳の秋諷はる、みゆきかな	春	浦	同上
天の戸は月のか、みの光りかな	錦	旭	同上
此あきはめてたき行幸拜みけり	光	弘	同上
木にくさにこゆる、露や朝やらけ	春	秋	同上
ゆたかさや治まる御代の秋日和	松	雨	同上

草の戸の秋や日のかけ月のかけ	石	山	同上
惠む日やみちに押あふ萩まゝき	東	市	同上
今霧のあれた日さしや神通川	芹	岱	同上
天晴な裾ひく山や野のよしき	勢	齋	同上
なみ風もた、てありそや秋のうみ	嵐	布	同上
御車や露の葎のなかまでも	其	諺	同上
仰くほといよく高しつきのかけ	一	龜	濱黒崎村
涉らるゝ河にも橋や御世のかけ	雨	曉	同上
秋のたのかりほも君かめくみかな	露	心	水橋町
いく千代も菊一輪のにはひかを	居	柳	滑川町

雪くにもかゝる日をへて紅葉かな 竹 母 湯上野村

おたやかな世とはなりけり稲日和 其 柳 八尾

澄のほる月にはれけりしをりくも 耕 水 同上

秋つ洲やいまをさかりの菊の花 文 雅 同上

紅葉照かけいたゝきて下なかれ 知 雄 同上

不むのりと夜は打明て菊の花 文 榮 同上

一天のひかりこねれて稲の出来 一 葉 同上

出来秋やをみくまても日の恵み 文 松 同上

雲もれて今や尊き空のつき 龜 松 同上

いつとなく日にめくまるゝ紅葉かな 一 宇 同上

照る月のかけや直なる道しるへ 貴 三 同上

祝辭

大澤弘道 第三大區長

伏テ惟ルニ上古ヨリ萬國ニ冠絶タル者ハ、吾皇邦ナリ、禮義衣服稼穡蠶織等、悉ク備具セサルハナシ、維新以降遐陬僻境モ、聖澤沛然、遍ク及ハサルナク、文明ノ化日ニ新月ニ熾ナリ、稼穡蠶織等ノ産業、歲月ヲ逐テ精巧ナリ、普天率土、盡ク罔極ノ皇恩ヲ感戴セサルナシ、況ヤ今鳳輦此北越遐僻ニ巡幸在セラル、豈啻皇恩ヲ感戴スルノミナランヤ、風俗愈淳厚ニ歸シ、産業益盛大ニ至リ、臣民隣々如トシテ大平ノ皇澤ニ浴シ、朝夕唯天皇陛下ノ龍體康ク、聖壽ノ遠カラントトテ、伏テ仰望シ奉ルノミ、臣弘道幸ニ區長ノ任ヲ辱ウスルヲ以テ、謹テ此鄙言ヲ陳シ、奉祝ノ辭ニ代フ、頃者越中地誌ヲ編輯シ、之ヲ地方長官ニ呈シ、這回鳳輦巡幸、此土ノ民情地理ヲ察識在ラセラル、萬分ノ一助ニ謹テ供シ奉ルト云フ、

(備考)

明治十三年六月刻成セラレタル文學御用掛高崎正風編輯宮内省藏版ノ千草蓮花(卷數六冊)卷五ヲ抄録ス
原書ニハ和歌俳句祝辭相混同セシモ今之ヲ類別セリ

御巡幸御日割

明治十一年九月二十八日

- 御小休所 下新川郡宮崎村大字宮崎村千四百八十五番地 九里東太由
- 行在所(御泊) 同 郡泊町大字沼保村九百六十九番地 伊東祐明
- 同 年九月二十九日
- 御小休所 下新川郡入善町大字入膳村五千二百三十番地 米澤紋三郎
- 同 郡飯野村黒部川原ノ中央 御野立
- 同 郡大布施村大字沓掛村 本傳寺
- 行在所(御晝) 同 郡三日市町大字三日市村三千三百九番地 島直平
- 御小休所 同 郡經田村大字持光寺村 大徳寺
- 行在所(御泊) 同 郡魚津町大字魚津角川町四十三番地 寺崎與一郎

明治十一年九月三十日

御小休所

中新川郡早月加積村大字追分村字西角地八百五十六番地

御野立

同

郡滑川町大字滑川中町千四百六十四番地竹中禎三郎

行在所(御)

郡東水橋町大字東水橋町八番地

廣瀬甚造

御小休所

上新川郡針原村大字町袋村官道西側

御野立

同

郡新庄町大字町新庄村四十番地

草野耕多

行在所(御)

富山市東四十物町三十五番地

中田清兵衛

同年十月一日

御小休所

富山市愛宕町壹番地

大間知正助

同

婦負郡東吳羽村大字五福村

觀音寺

同

郡西吳羽村大字中茶屋村五百八十八番地嶋崎七右衛門

同

射水郡老田村大字願海寺村千二百二番地

佐崎伊作

同

郡小杉町大字戸破町四千二百三十一番地寺林清憲

同

郡大門町大字大門新町三十六番地笠間之幹

行在所(御)

高岡市片原横町

公立育英小學校

御小休所

西礪波郡立野村大字立野村

長久寺

同

郡福岡町大字福岡町千四番地

島田七郎右衛門

行在所(御)

郡石動町大字今石動中飯田町

道林寺

同年十月二日

御小休所

同 郡南谷村大字安樂寺村字五軒橋ノ南

御野立

(備考)

箇所名ハ町村制實施後ノ名ヲ用ユ又建物現存ノモノニハ「」符ヲ施セリ

明治四十二年 皇太子殿下行啓

行啓
詠進
數啓

郡市	和歌	漢詩	俳句	計
富山市	一二	一一	二四	四七
高岡市	五	六	〇	一一
上新川郡	一	一	二二	二四
中新川郡	一二	一	一九	三二
下新川郡	三二	〇	五	三七
婦負郡	三	七	九	一九
射水郡	八	二二	四〇	七〇
氷見郡	〇	一	〇	一
東礪波郡	二	〇	四	六
西礪波郡	二四	二	七	三三
計	九九	五一	一三〇	二八〇
頌徳表	壹章			

行啓奉迎詠進

和歌

御車を迎へ奉りて

西礪波郡長
從六位勳六等

廣瀬昌柔

日の皇子のめくみの露も三越路の

ほを人草のその葉をゑまで

寄 菊 祝

同郡水島村
勳七等

筱岡貞次

ひのみまのめくみをうけて越路なる

きくも千とせにはふなるらむ

御車を迎へ奉りて

同郡祝學

吉田佐市郎

ひのみまのめくみの露は草深き

野にも山にもかゝりけるな

寄山祝

四礪波郡石動町
高等小學校長

齊藤茂一郎

日の皇子の萬代をきてくりからの

やまにそひくよろおひの聲

奉迎

礪波中學校校長

吉波彦作

やさたちをとなみのせきの絶てなれ

みくるまむろふ大御代の秋

寄菊祝

四礪波郡石動町
中倍正

齊藤天海
七十八年

あもかれのをるまで残る白菊は

みあのみくるまおくりむかへて

同

同郡正得村
尋常小學校長

林義敬

いろもかもたくひなくきく菊の花

皇子のみくるまむろふあ・ろろ

奉迎

同郡大瀧村
尋常小學校長

岡田政宣

をとり出てよろこぶ魚の有磯海

ふかきえくみの波のうねく

寄菊祝

同郡五位山村

小野孝子

たくひなくかをりこそまれ菊の花

たくひもあらぬ秋をむかへて

寄山祝

同郡地生村

八十島元吉

みくるまをむかへまつりて礪波山

まつふく風も千代よはふなり

奉迎

同村

八十島つね子

日の皇子のひかりに越の奥深き

かた山里もかゝやきよけり

寄 菊 祝

四瀬渡部林村

伊藤祥雲尼

ききにはふ菊の葉毎の白露ハ

みくるまむかふうれしなみたか

寄 魚 祝

同 郡福光町

佐々木信平

まぢかねしこよひの月に照されて

小矢部川にもいををとるかな

寄 山 祝

同 町

石崎彦平

となみ山千草のとなのにしきさぬ

いかよまつらむ皇子のみくるま

寄 山 祝

同 町

西村薬磨

あきたちをとなみの山の山かつも

いけるかひありてけふにあひぬる

鶴駕を迎へ奉りて

同 郡津澤町

澤邊光久

日の皇子の光くみにあひて越の國

名なしくさまでいろうとねにけり

寄 山 祝

同 郡石野町

伊藤清太郎

日の皇子をむかへむとてかとなみ山

くさはの露も玉と見ゆつ、

寄 菊 祝

同 町

櫻田梅岳

きみかためまこころこめて植置し

きくもことしへのひらひならぬ

寄 山 祝

同 町

小谷吉助

となみ山もみちのよしきたかさりぬ

あまつ日の皇子むかふこころか

寄 菊 祝

西尾波郡吉野町 大谷とよ子

常になく菊のよきひのいと高し

み子のみくるまむかふことは

奉 迎 同 少府正町 齊藤善應

くもるより玉の御車草ふかき

野にも山にもまきしるうれしさ

奉 祝 中新川郡滑川町 衆議院議員 神保東作

日の御門とほくみゆきの有磯海

そこひもあらぬ恵なりけり

同 同 郡宮川村 郷社神度神社々司 二宮正義

ためしなき日嗣の皇子のいてまじを

あふくもかこ越の民草

同 同 神宮皇學館學生 二宮正興

草も木も心ひとつにいてまじの

ひつきの皇子を仰くがしこさ

同 同 東福郡 東福郡常小學校長 細川清

をしへ子と宮の八千代をうたひつ

迎ひまつるそうれしかりける

同 同 白旗郡 白旗郡常小學校長 黒田吉治

あまさかる越の民草時をねて

皇子のみゆきよ逢ふそかこさ

同 同 上市郡 上市郡常小學校訓導 深井權七

あなたふと越の中つの里にまて

仰くひつきの皇子のみくるま

奉 祝

教へ子よかたみにうるし松のま

中新川郡 若杉尋常小學校長 松井喜次郎

やかて皇國の柱ともなれ

同

同郡 榑澤村長 榑田諧太郎

民草も風になひきつ豊かなり

ひつぎの皇子のひかり仰きて

同

同郡 上段村 土肥豊亮

日の皇子のめぐり玉ひしみ照しを

越路のひなに仰く民草

同

同郡 滑川町 榑原神社々司 且尾嘉延

太刀山も有磯の海も千代かけて

けふの行啓を世よかたらなん

日の宮の御影を拜み奉りて

綿貫郡 杉原村 黒田竹次郎

かきりなまめくみの露ようるほひて

ち、の花さくこしの民くさ

鶴駕を迎へ奉る

同郡 百塚村 土湊 助八等 小池春香

出まこの御先のちりを吹まらふ

かせもおとせぬ秋のゆたけさ

寄 菊 祝

富山市 西四十物町 坪田つや

大君の千代のしることきくの花

をりかさしつ、御子やむるへむ

月 明

同 人

うれしくも幾夜まらたる甲斐ありて

さやけき月を仰くけふかな

奉迎之詞

射水郡伏木町
士族 醫師

長谷川徳之

立の雪奈歩の浦半の波までも

けふの御行を迎へまつらむ

同

同

町 谷村常三

みめくみもかゝる港の干船よも

積みつくされぬけふのうれしさ

同

町 士族

加藤武連

日の御子を迎へまつらむ民草の

あかきあゝろのもねつるなり

同

士族 醫師

池田政實

そめ御子ををろかむ時は千代田なる

大君仰くこゝちこそをれ

同

同

町 藤井能三

此秋はめくみの露のぬかければ

なひく草木もうるほひにけり

同

同

町 萩原 撲

御輦のよほろもなやむ人の山

ゆりつゝあふく高きみいつを

同

同
伏木神社
士族 學

尾崎充三郎

日の御子の高き稜威をふし拜む

けふそうれしき賤の民草

寄

舟 祝

下新川郡魚津町

阿波加脩造

朝夕にみなとみなとのにきはしく

ふねの數そふ御代のゆたけさ

寄立山祝

下新川郡魚津町

大島直喜

ためしなき御代の恵みは立やまの

山のおくまでゆたけかりけり

寄いろは川祝

同町

五十里權右衛門

數の瀬よあれに荒よしいろは川も

やまらにこたる君か御代かな

寄愛本橋祝

同町

吉田秀三

千代つさぬ君か恵みに愛本の

いはまを通ふはしそやまけさ

寄有磯海祝

同町

大久保興吉

けふもまたさらは有磯の海士の子も

君か恵みとうたふゆたけさ

寄濱松祝

同町

檜川金次郎

とき浪のよれと動かぬ岩か根に

豊かにたてるはまのたかまつ

寄松祝

同町

西尾新

動きなき大和いはねの若松は

かけいゝ高にすすさかゆへき

寄綱引祝

同町

中村玄逸

四方の海の浪も靜に治まりて

あひきの業のいとやすきかな

寄松祝

同町

横田榮純

御車の御かけにたてる松か枝は

萬つの歳をほきてをるらぬ

寄秋田祝

下新川郡魚津町

中村よね子

日のみこの秋のいてまし千まち田の

くに富くさそいや茂りける

寄漁火祝

同

越野鈴子

さち多き魚との浦の漁火よ

れものゝ鯛もこよひ釣らし

奉

祝

同

美谷助次郎

君か代は大御惠の露ふかみ

みつ穂の國にみつる稻の香

同

同

出澤與吉

大君のめくみの露に小山田も

ゆたけき秋をいはふけふかな

同

同

天野吉次郎

千代八千代数も限りもしらさくの

かをりゆかこき御園生のあさ

同

同

三田源次郎

山たかく海また深きたるきみの

めくみのつゆにみのる秋の田

同

同

越村金府

君か代は其名はかりそ境川

こたるにやすき橋のかゝれる

同

同

高木千代

ちよふへき鶴の齡に比ひてそ

雲井の庭にしけるこか松

奉 祝

下新川郡魚津町

辻 金次郎

大君の惠の露のふあければ

いろかも増してしける民くさ

同

同 町 小倉彌三兵衛

御車を迎へまつりてしつか田も

いねの香にふけふのうれしさ

同

同 町 北野彌三次郎

とあしへに安き御代こそ尊とけれ

天つ日嗣のかきりなければ

同

同 町 松倉善次

ふしの嶺も新高山も千代八千代

動きなき世そめてたよりける

同

同 町 守谷貞良

敷島の道の榮には千代八千代

かはらぬ御世のためしなりけり

同

同 町 桑山彌三次郎

とつくにもあふきて高さふしか根の

動かぬ御世そ尊ふとかりける

同

同 町 島 太郎左衛門

たぐひなき秋津島根の千代八千代

動かぬ御世そめてたかりける

同

同 町 平紙外次郎

大君の御稜威高くも日のみはた

か・やきこたるよものうなはら

奉 祝

下新川郡魚津町 美谷竹治郎

あき島の言葉の道も大君の
御稜威と共に世にや茂らむ

同

同 町 奥平久次郎

みめくみの露に越路の山やまも

朝日によやふ峯のこか松

同

同 町 糸氏喜八

神かせにこまもろおしもなひきつ

ひのはたかけに謳ふよろつよ

同

同 町 木井鶴松

民くさのさきはふ國は大君の

恵のふかきしるしなりけり

同

同 町 山田初次郎

ゆたかなる御代のためしは穂に出て

千代に八千代によやふいねの香

同

同 町 木下平兵衛

しら菊の曇らぬ花は大君の

大御まゝろの匂ひなるらむ

寄 祝

射水郡横田村土族 小林守直

とよとこのたまはの稲もなみふして

たねみくるまをむかへまつらん

同

高岡市末廣町 嵯峨八重野

みくるまの音も尊く仰かる

民やすかれの御おとなりせは

晴 天 鶴

高岡市利原町

菅原 窈子

くもりなき君か御代とて鳥すらも

みとりの空を仰きつるかな

寄 松 祝

同 人

色かへぬ君か姿は若浦の

まつにちとせを契り置きむ

寄 山 祝

西礪波郡國吉村

岩上 英樹

天さかる夷もくまなく照らしつる

はるのみやまの月のさやけさ

天恩民忠祝

同 郡北磐谷村長

高嶋 金次郎

天皇の御影尊とき久かたや

民諸ともに忠を勵まん

祝 歌

富山市中野新町

中川 宇三郎

時つ風日嗣の宮の國見かし

さ・ほの稻もつもりたれつ

鶴駕を迎へ奉りて

婦負郡杉原村

山田 兵庫

日の御子の千歳よまさむ世をねきて

たかたみいつをゆふくけふかな

奉 迎

中新川郡清川町

権名 謙二

ためしなき御代に生れて賤の身も

越路の里に迎ふ御輦

同

同 郡 大森 高等小學校長

石坂 江久

ゆたかなる秋のはれのにかしまくも

いてましまかふけふのうれしさ

東宮殿下の行啓をよろこひて

下新川郡治町

大菅忠治

ひぎかたの天つ日嗣のみいつかけ

仰くもうれし越の民草

同

富山市西四十物町
士族 醫師

山崎一宣

待れけるめくみの雨に濕ひて

つゆも色ます越の民草

同

同市露中町

淺岡來造

朝日かけゆふくまかこ有磯海

なみも静けき御代にあひつゝ

同

同市常盤町

中島龜太郎

天照を神の御末の皇御子の

ひかりをあふく今日のうれしき

寄 月 祝

富山高等女學校教員
士族

不破重常

ひてましのけふを光と照月も

曇なきよのかけはみゆらむ

祝 歌

西礪波郡東太美村

中山松次郎

大神子の御輿の先の幸くは

千代萬世の末の末まで

御巡啓を祝ひ奉りて

高岡市定塚町

沖 榮太郎

三越路へひてましまちてけふの日も

みかとのさくのに不ひをかまむ

祝

東礪波郡井波町

泉 澤 万作

治まれるかこき御代にみこの宮

光くみあまねく越の山ふみ

祝

五四

日の宮の御影をこそふみ越路や

東瀛波部井波町

小澤篤太郎

八束のたりほ波ゆたかなり

同

富山縣按手

荒井馬次

風そよくたり穂のなみも静にて

みくるま迎ふ今日のうれしさ

奉

祝

富山市越前輪士族

清水治之

御車をむかへまつれる萬代の

こゑにゆるかむ越の太刀山

鶴駕を迎へ奉りて

富山縣屬

國澤彌吉

とつ國の人もあふかんこのころの

雲に色あるみ越路のそら

同

富山市四十四物町
士族

齊藤理則

御恵みのあまねき露にうるほひて

あけり行くらむ越の民草

奉

祝

上新川郡東岸瀨町

澤井五平

八十一年

波風も静なりけり越の海

たふとかりけり天つ日の影

富山市千石町士族

吉武静夫

正六位勳六等

皇太子殿下行啓于越中國時奉詠進歌一首并短歌

安見し、吾大君 高光る 日繼の御子 神ながら 國見をせまると 璞の年の
内には いくはくも 時のしめれと いくはくも 折をこあれと 茜草刺旭の
光明らるに 治まる年の 四十まり二のとしの 紅葉てり 秋萩にそひ月

五五

清き秋の最中をうまし時とおもふし然さへよた折とうらへさためて
 もの、ぬの八十氏人を御先へにゆともひ給ひ百敷の大宮人を御跡へ
 に引率給ひて空計大宮所朝露の朝みた、し夕霧のゆふ御立たし越
 の國の道の中まで畏こくもたちて出ますみくるまを迎へ奉るとなつ
 さはる官人らも薪ある賤のをのこも磯菜つむ海部城孀らも押なへて
 縣の極み搔なめて窪田たちま道もせに左り右りに雁金の列なめ居れ
 はいみつ川いゆきめくれる玉くしけ二上山も這ふ蔦のいとひもとや
 り新川の天そりしてとあしへに雪をかつける太刀山はうなねつき
 めき水鳥の鵜坂の川は上津瀬に鵜川をたて手童の這付川へしもつ瀬
 に狭手さし渡し山川もよりて仕ふるけふの日のたふとき様を今日の
 日のめてたきふりを越地山しみたてる如とこしへに見まくをほりす
 安見し、吾大君高光るひつきの御子の御車のとよもす音を越地川流
 る、如く遠水に聞かまくほりす越の國の道のまを都へにして

日子御子は神なからよをとよしへに

御代ぎのぬませ天地のこと

市立高岡商業学校教諭

中島芳太郎

恭奉賀 東宮殿下行啓之歌一首并短歌

高ひかる日月の下に星の如こ、た并立百千くに大國小國くにことに
 かにもかくにも君ありて民を治めて民ありて君に仕へてか、せ雄の
 世にか、やけと末つくに末にはしりて上下の分もたすそこゆゑにく
 にはほろひて中空に消ゆるもゆるを木つ國本を忘れす君はきみ臣は
 やつこ定れる位守りてすめかみの則をこほさる玉かきの内つみくに
 は外つくのたくひにあらずたくひなきくにのいはれを樛の木はい
 やつきくに親に子にかたり傳へて子は孫にいひも繼かひて今も猶
 かくそ在りけるのちもまたしかをゆるへき然はかり正しきくにのかく

ばかり直きことふりを つはらかに 見し給はむと かけまくも 綾にかしこ
 き我大君日嗣の皇子の皇子をからおほした。して西はしも筑紫のまは
 みひむかしはみちのたくまで御ころをめぐらしませる いてましの大
 みくるまは 何時しかも到りまさむとみ雪降る この國內の山祇は山
 きりひらき 河の神橋かけきたし 縣守縣司は御舎を作り奉りてみ民ら
 は徴をとばなしに さら雀友よひかはし 燒鎌の敏鎌振り立て 男子らか
 草刈りはらひすきまさむみちつくろへは 玉帯 手にとりもちて 少女ら
 も手たまもゆらに いてまさむみちはき潔めみめくみの 露にうるほひ
 人くさの しげく成りゆく 高岡の まなひの庭の やつこはしかすならねと
 めをこへくさ子らにつませて 子らかため 二上山の 二おやに 成りもか
 はりて 守山の 守り居るわさと 懇に さとしげらくは 苜あもの 亂りかは
 しき 外つくれの 末つ國には 幸よくも 人と成り出てす 内つくれ 本つ御
 國に 子と生れ 民と育ちて おほみかけか、ふらむ子は 磯波野の 利ころ

ふるひ人ころた、よはさしと 神なから 下したまひし 勅語 いた、きも
 ちて 劍太刀 身の ちとく にとる わさを はけみぬそし 國のため いさ
 をしたて、たち山の はく、みたてしたやの名も み代の長濱 なかき代に
 あらはすへことかくさまに ときもさとして 天つ日を 仰くかことく 雨雲
 を望むかことく 待ちわひしかひこそ在りけれ 白菊も 黄菊もかをるな
 ら月のけふのいく日に いてましの 大みくるまの 山河に 響きわたれば
 神こそは うつ、よ見ねね うつしみの 世にあるかきり 御光をしたひ参出
 てをかみ河をかみ奉りて 諸共に 千代田の宮の 千代かけて 萬代かけて
 平けく 安けくませと 我大君 日嗣の皇子の みよとひを ことほきまつる
 その聲は 國をゆめりて その聲は 天をとよもし 天下 大國小國 鳴神の
 音にも聞きて 皇神のかため給ひて 宮柱 うこくことなき 本つくに 内つ
 みくれのくにふりの たふときことを いかそかり 下こひそらむ 君に民
 らに

すゑつひにひとつよならむ四方のうみ

我大君を大君にして

縣内學校生徒奉迎歌

朝日か、やく日の宮の

御のけ仰くも畏しや

高きみいつは立山の

くもにそひゆる雪の峰

夕日てりそふ日の宮の

御影をろかむ嬉しさよ

廣きめくみは有磯海の

波路はてなき海の原

漢詩

恭奉迎鶴駕

綴賀郡連風村
貴族院議員

淺野長太郎

五穀豐穰秋氣清
載路高呼萬歲聲

奉迎鶴駕富山城

縣民肅拜齊相祝

恭奉拜鶴駕登吳峰

同人

皇家仁德遍乾坤
越中山水始知尊

四海蒼生沐聖恩

今日吳峰迎鶴駕

奉迎鶴駕恭賦

射水郡野村

河合嘉平

明德由來不可量
夾道松濤奏四章

蒼生今日仰重光

稻雲萬頃秋晴外

同

同郡作道村
縣參事會員

石黒準太郎

光華四表氣蒸仁

鶴駕親臨率土濱

三縣兆民霑雨露

四郊百穀滿箱園 獻芹休咎里閭調 擊壤誰非草莽臣
劔嶽橫空神水淨 秋陽偏映繡衣新

奉迎鶴駕恭賦 射水郡小杉町 松長太作

北越西風九月天 奉迎鶴駕錦旗鮮 立峰鸞鳳舞紅日
神水魚龍吹瑞煙 民瘼問來濡雨露 地圖閱罷按山川
謳歌父老集如堵 聖德万年還億年

同 町 片口安太郎

朱明掩映越中天 父老初迎鶴駕前 禾熟黃雲蒸隴畝
秋高灑氣爽山川 觀風察俗親垂範 玉裕金聲厚禮賢
炳耀前星德如日 深恩雨露自無邊

同 同郡下村 坂井敬義

鶴駕年年西又東 邦家無限浴仁風 微臣遭際昇平日

咫尺龍顏感不窮

同 同郡橋下條村 渡邊謙次

銅輦初迎千歲機 三州河嶽發光輝 觀風察俗及陬僻
父老篋壺拜繡衣

同 同郡小杉町 赤壁德平

野人初拜錦幡過 古越山河瑞色多 北海洋々刀嶽秀
蒼生百代浴恩波

同 町 增田彌次郎

遭際昇平沐聖恩 祥雪擁駕鬢乾坤 謳歌載路忙壺篋
仁風全蒸穰穰村

同 町 戶田嘉平 七十七年

仁風千里國旗翻 奉拜龍顏堵列躡 惟覺山河祥瑞色

春宮恩德溢乾坤

奉迎鶴駕恭賦

射水郡小杉町

須藤利作

鶴駕明時此北巡
叡慮親垂及此民

紫雲變黷劔峯新

西風省斂黃禾熟

同

同

町 藻谷伊作

仁風蒸盡北邊陲
簞壺齊唱太平謳

正是黃雲豐熟秋

欲獻野芹私自笑

同

同

町 竹林專順

日月清明天下和
載地歡聲父老歌

霽然祥瑞滿山河

無人不浴昇平澤

同

同

町 結城吉重

輦路虔迎北越民

紫雲變黷瑞光新

生逢聖代感何極

奉拜龍顏淚濕巾

同

同

町 山本新兵衛

鶴駕親巡大有年
慈雨仁風率土宣

黃雲千里望無邊

昇平不讓唐虞世

同

同

町 稻田喜八郎

省斂龍驂父老迎
何幸邊陲拜錦旗

秋高七道瑞雲橫

盛儀千歲雖重遇

同

同

町 昇塚本勇

燐燐菊花祥瑞濃
何幸遐陬拜聖容

蒼生堵列表虔恭

皇家仁德如天大

同

同

郡老田村 宮崎幸太郎

百萬編氓鶴駕迎

祥雲瑞氣越中橫

路傍感泣龍顏拜

一道嵩呼萬歲聲

六六

明治四十二年歲次己酉秋九月
奉迎鶴駕行啓于北陸恭賦

西礪波郡立野村

日尾清太郎

立峰雪色入秋清
山河草木被光榮

北海波濤迎駕平

銅鞮僻陬觀稼穡

奉迎東宮殿下北陸行啓恭紀

婦負郡杉原村

山田兵庫

鶴駕下天衢

金聲振海隅

臨民親厲俗

法祖夙資謨

彩仗凌晨動

靈香扈蹕敷

官僚齊虎拜

衆庶共嵩呼

夏諺傳歌頌

幽風入畫圖

年豐開泰運

國富協昌符

日月清輝合

山川秀麗俱

蚩蚩欣乃粒

草莽仰唐虞

奉迎鶴駕中越行啓

同村

坪坂安次郎

重光奕奕出青宮

父老壺漿此日同

欽仰省方教化洽

熙朝文物自昭融

奉迎鶴駕恭賦

富山市千石町士族
農工銀行支配人

半井尙暢

鶴駕叙方臨越州

載途父老奏歌謳

二千五百年間史

盛事初傳今歲秋

奉迎鶴駕北巡

同市吉手町

大伴岳陽

天公巨眼野無遺

萬物靡然止緝熙

今日拳々也何幸

齊明盛服拜龍姿

同

同

曾迎聖駕去悠悠

歲月已移三十秋

復拜今辰鸞輅過

野人上壽頌東周

同

同

夙夜經營博望臺

偏州引領篋王來

野無餓莩民無怨

擊壤謳歌穰々堆

六七

奉迎皇太子殿下

中新川郡五百石町

橘 米次郎

警蹕聲中鶴駕來 黃塵肅肅掃輕埃 山河情色秋如畫
禽鳥和鳴風作媒 瑞氣浮天吳嶺頂 祥烟簇地射江隈
萬民到處齊相慶 張幕揚旗捧壽杯

奉迎鶴駕

市立富山商業學校助教諭

稻泉清太郎

震德何巍巍 國儲叙群方 嗟我越中民 坐拜冕旒光
洋洋神水隈 葱葱吳山陽 絳節臨戎旅 黃塵下序庠
斯文維以興 我武維以揚 恩眷及百工 謳歌遍路傍
誓應無放逸 夙夜自相彊 願奉萬壽頌 玉體賴安康

同

富山市覺中町
醫師

淺岡來造

風淨秋高霽色妍 滿城光景簇祥烟 民生此日恩何限
鶴駕親臨北陸天

同

同 市梅澤町
大法寺住職

岡田嶺逞

秋氣清澄不起塵 奉迎鶴駕北方巡 今朝恭拜尊顏麗
德澤深沾草莽民

同

同人

欽仰皇儲仁德隆 民心遂有達明聰 奉迎鶴駕何多幸
恭拜尊顏咫尺中

同

同 立保寺住職

森文成

穉高登穀節 氣淨日旗新 伏聽金聲響 仰邀丹駕巡
漢恩施父老 玉幣吊賢臣 誰不歎仁德 威靈遍四垠

同

富山市常盤町

中島龜太郎

北越今秋逢吉辰 歡呼百萬奉迎民 元儲明德眞洪烈
僻邑孤村亦浴仁

奉迎皇太子殿下北陸行啓恭賦

婦實郡龍坂村
衆議院議員

岡崎佐次郎

九月西風除暑威

春宮省歛日光輝

露垂草野露方洽

鶴下雲霄豈倦飛

天有星辰經緯正

年無水旱稻梁肥

繼明照爛徧州郡

德被千秋及萬微

奉迎鶴駕

同郡百塚村

內山松世

亭臯雲物美

環堵拜儲宮

曙月低河影

幡花映菊叢

龍光騰白日

鶴舞舉秋空

時恰逢登稔

群生歡不窮

奉迎鶴駕恭賦

射水郡作道村

宮原順吾

風塵吹絕野花芬

仙鶴一聲天際聞

瑤駕奉迎新道曉

壽星明徹越山雲

奉迎鶴駕

上野川郡落島崎村

寶田正夫

儀象聖圖啓

維天剛降康

夢虹祥兆協

占氣慶雲望

配極堯周典

祀宗日月光

千穰欽懋惠

濡沃遍遐方

恭迎鶴駕北巡紀喜

高岡市末廣町
從七位勳六等功五級

木津太郎平

重輪肅々路無塵

惠澤仁風率土濱

鑒國撫軍二十載

餘恩又許太平民

同

射水郡掛開發村
勳八等

川田鴻

黃離表瑞氣融々

赫々重光寵命隆

擁路兆民齊感泣

越中草木偃仁風

同

同郡二上村
勳七等

川崎喜太郎

百里黃雲瑞霧勻

刀峰曉日逐重輪

蒼生齊是仰明德

雨露恩同化育仁

同

西礪波郡福田村

寺野宗欣

仙鶴一聲鳴九臯

神人迎駕響雲璈

前星正耀越中路

七十二峰秋氣高

恭迎鶴駕北巡紀喜

高岡市通町

本郷榮藏

聖代恩波與啓明

黎民雀喜唱昇平

恭迎鶴駕教孫子

謹拜金旗致至誠

神嶺翠深高壽算

龍灣碧漾美餘榮

光輝照地饒秋穀

瞻仰天香萬里盈

同

同市和屋町

金子恕謙

穠穠紅中秋滿田

前星又耀越山川

願修北陸千秋史

長紀明治已酉年

同

又八郎長男

米田正二郎

七十二峰祥霽開

旗光肅々拂雲來

歡聲滿路拜銅輦

誰獻樂章成頌成

同

同市地子木町

村谷太次郎

聖澤如春萬物和

一天雨露潤嘉禾

瑞光高照孤峰雪

佳氣濃籠大海波

皇統綿々享國永

樂章穆々入歌多

黎民齊拜青宮駕

奈此雍熙景象何

同

高岡市御籠屋町

中谷佐一

微臣曾在羽林營

一片丹心護鳳城

七十二峯秋色裏

人迎鶴駕證金聲

同

射水郡掛間村

大橋十右衛門

撫軍鑒國聖謨弘

天地降祥瑞氣凝

主器東宮飲孝恭

巡鑾北陸仰仁矜

夏絃春誦俗成古

十雨五風年又登

日月光華見恩幸

嵩呼萬歲有黎蒸

奉迎鶴駕

富山市西中野町

島田信太郎

祥光滿野望無窮

輦道旗旒映旭紅

城外今秋禾稻熟

一莖九穗偃仁風

祝

詞

氷見郡書記

松波松次郎

萬戶高颺旭日章

欣欣草木競芬芳

太刀峰外神江畔

鹵簿齊齊拜一行

七四

奉迎鶴駕

歸頁郡長
從六位勳五等土族

前田則邦

鶴駕暉晨瑞色崇
感起蒼生貞烈風

山河表喜露華融

移松恭記殊恩渥

五色雲車臨越州

富山市五番町

若杉彦太郎

瑞霧祥烟恩寵優

蓬萊天闕畫清秋

太平有象歲頻稔

同

林水郡下關村

金武央

道豐仁洽浴恩波
瀼蒸霞鬱瑞氣多

闔縣齊聞擊壤歌

肅々秋風金輅路

祭天齊齊宮殿

奈波縣無量壽寺

中谷

中谷

俳句

月

民草の野邊ふす上や月の露

射水郡新湊町

南 伊左衛門

大御代や浪平かに奈吳の月

同 勳八等町

近岡七太郎

有難の月視かるゝ海士小舟

同 町

龜田市太郎

永らへし幸や御船を月の海

同 町

手丸長右衛門

待ちに待ち待ちし今宵や月の照

同 町

釣 友次郎

暮れやすき奈吳の小川や秋の月

同 町

京谷徳太郎

照る月を迎ふる舟や旗高し

同 町

酒井佐吉

明月や七浦かけて波靜

同 町

長岡外次郎

海原や浪の花しく夜の月

同 族 町

西宮重美

七五

釣 嘉一

佐伯吉三郎

佐伯 繁

杉本與太

鹽谷久松

岩坪秀次郎

四方七太郎

酒井傳勝

龜田外次郎

寺崎東作

射水郡新湊町

同 郡能町村

同 村

同 郡新湊町

同 町

同 町

同 町

同 町

同 町

同 町

同 町

曇なき御代の姿や海の月
奉迎の事みな足りてけふの月

海一里二里も往て見んけふの月

紅塵も澄みて月待つ今宵哉

明月や國旗かゝくる竿の先

月清し一葉の舟にひと家内

海陸も自他なく照らす月夜哉

月は海に満艦飾や國の華

螢鳥賊

海原の藻屑の花敷螢鳥賊

薄紅の衣着てやさし螢鳥賊

螢鳥賊出瀬につれてうかひけり

穩な海の光りや螢鳥賊

細引やつなにも光る螢鳥賊

潮時や藻屑の中の螢鳥賊

御威光や海にも浮ふ螢鳥賊

群かりてともし捧げよ螢鳥賊

星影と見まかふ程や螢鳥賊

九重の空に映るや螢鳥賊

鯉引

なきつゝる鳥も勇まし鯉引

蟹か子の鱗まふれや鯉引

同 町

同 町

同 町

同 町

同 町

同 町

同 町

同 町

同 町

同 町

同 町

同 町

同 町

同 町

同 町

同 町

同 町

同 町

同 町

同 町

同 町

同 町

同 町

大西常太郎

港 長左衛門

鱸引く空に見事や都鳥

射水郡新湊町

南喜作

寄せて返る波も興ある鱸曳

同町

荒谷善太郎

鳥舞ふやこき来る奈古の鱸船

同町

近岡八造

朝月や奈吳の入江の鱸引

同町

田代喜三吉

朝毎の歩行樂しや鱸引

同町

長濱周吉

鱸引く奈吳や箒小夜嵐

同町

宮本常次郎

鱸引く漁村の秋や夕烟

同町

松野敬和

東宮殿下の行啓を迎へ奉りて

小さとまで賑ふ秋の籬日るな

西瀬波郡石黒村

河合十郎

案山子まで笠ぬき捨て御成道

同郡林村

杉下佐太郎

仰くやとますく高し秋の空

同郡六等村

出村庄之助

千秋の香りわすれぬや菊の酒

同村

島田太郎

菊の香よにしり出たり蝸牛

西瀬波郡石動町

櫻井兼香

御車の先に群けり稻すゝめ

同郡旨出町

菊地初三郎

八束穂や居なから君にさけもの

東瀬波郡城端町

荒木文平

行啓や馬肥て秋の空高し

同町

荒木太四郎

奉迎の人波たつや稻の秋

同郡出町

神崎新右衛門

いつつあれと粧ふけふの野山かな

同町

高島幸吉

御車のゆとるたひゆく花野哉

氷見郡氷見町

伏間彌三郎

露の香も恵みの味やことし酒

同町

谷岡善五郎

軒々の御旗も秋のよしき哉

同郡八代村

大島三松

神風の爰にもふくや稻の波

射水郡小杉町

竹内長太郎

行啓のみきたよいさむ踊かな

姉貝郡八尾町

松本七兵衛

まことより御調ものなし稻の花

同 町

吉友順平

免くり来る車駕やゆたかな稻の中

同 町

中村安次郎

野やよしさ今に千歳の曠の秋

同 町

館谷桑次郎

奉迎の赤きこゝろそ草もみち

同 町

泉 初太郎

雨すきて道清光たる花野哉

同 郡杉原村

井林宗清

豊の香の四方よみちけり國の秋

同 郡四方町

安川 方

よそ國になき薫りなり菊の花

同 町

永井與一郎

御出ましを迎ふぬりなるか、しかな

下新川郡泊町

小澤善四郎

稻の香やたふりともせぬ有磯海

同 郡三田市町
勳七等

平井順吾

ためしなき秋にむれるや稻すゝめ

同 郡魚津町

岩城利一

秋すむや藪の奥まで露明り

同 町

吉野喜平

月の秋御簾の光り仰きけり

同 町

大久保權右衛門

稻むしろ只廣かれとおもひけり

中新川郡滑川町

酒井威八郎

御代うれし屑家もさくの匂ひかな

同 郡北加賀村

石坂 静 治

帯目に眞こゝろこめてさくの花

同 郡滑川町

泉 五左衛門

あけ日南なきまら菊のよるひ哉

同 町

有川 正 則

戸さぬは御代の習や秋の月

同 町

廣野了太郎

新藁のむしろもおりて月設け

同 町

大 槿 昇

貢とや一粒はりのことし米

同 町

杉田直次郎

蕾より待甲斐ありてけふの菊

同 町

谷井初太郎

さくの花両手をつきて見上げ参り

同 町

網谷 興 八

菊の香の小さとに餘る譽かな

中新川郡滑川町

吉井正

よろこひの聲にゆるくや稻の波

同 町

深井桑次郎

香に浴むいつれはあれと今日の菊

同 町

早川久之丈

さくの香に敷くや蓮の織おろし

同 町

大橋久成

けふとあり戸さま雲なし秋の山

同 郡西水橋町

室谷鐵太郎

ぬかつくや花野よあまる日の光り

同 郡西三郷村

村上平右衛門

待うけて出揃ふ秋や花すゝき

上新川郡山室村

竹林巳之助

白菊や時得てはさく花なから

同 郡東島瀬町

日出島久藏

大鳥も舞出る世そ艸の春

同 町

中木庄太郎

仰けみな香もふたつなき菊の花

同 郡奥田村

桑原鶴次郎

見そなとせ吳山の秋の唐よしき

宮山市西中野町

石黒兵藏

七十六歳

民艸のもれを惠みの深き露

同 市愛宕町

藤岡彌三郎

御簾もる、香も光りある黄菊哉

同 町

大間知清兵衛

ためしなき秋やゆたけき越の空

同 市東三番町

常田治平

露の惠みうけ得て五十四万石

同 市千石町

半井尙暢

此うへに何る願ともむ豊の秋

同 市清水町士族
勳六等功六級

山田勝次郎

汗水のまことさ、けむことし米

同 市諏訪川原

稻本保太郎

しら菊の何處迄ふかき薫りかな

同 市愛宕町

藤岡清三郎

さ、けはや干草百艸露のま、

同 市愛宕町

佐久間繁次郎

とつ鮭や網からそくの捧ゆの

同 市古鏡沼町

眞木和三郎

御出ましを待や紅葉も染交て

同 市泉町

柴田直太郎

待榮の今日や色添ふ菊もみち

同 市梅澤町

渡邊藤次郎

掛稻も尊き朝日拜みけり
 鶴も舞ひ龜もとれよ千代の秋
 稻苜の泥手に拜む朝日かな
 海山や秋澄わたる鶴の聲
 この秋や千歳に匂ふ菊の宿
 海士か家も此香にもれし菊の花
 穂を解てけふの曠まつ薄哉
 御幸まち得たり深山も紅葉とき
 今日の日をなひき伏けり萩すさき
 さち多き秋を颯ふや松の聲
 もくらにも恵みの露の降る日かな

宮山市姥町 大島滋太郎
 同市八人町 水上政之助
 同市東三番町 舟橋美雄
 同市古銀治町 杉林安次郎
 同市下金屋町 辻辰之助
 同市砂町 土地仙太郎
 同市材木町 笠間成治郎
 同市桃井町 宇多外吉
 同市梅澤町 馬場定太郎
 同市總曲輪 森政次郎
 遠藤誠一

俯向て稻も時しるみのりかな
 稻の香や諫鼓苔ひして腹うのみ
 白を仰き穂に出る五十四万石
 草むらも洩さそ月の光りかな
 白菊に心薫する日和かな
 威や高く重なり匂ふ菊の花
 菊の香や慶雲越の野を罩めて
 越民の御代ほきまつる菊の花
 うちかな御輦拜する菊日和
 日の宮の御覽かこしこし賤か菊
 菊の香を仰きまつるや越の里

中新川郡滑川町 吉田 歸一
 上新川郡新庄町 黒川方三郎
 中新川郡上市町 酒井仙三
 同 町 武田和一
 上新川郡東岩瀬町 堀 保太郎
 正八位勳六等 同 町 伊東伊三郎
 勳八等 同 町 吉田安太郎
 同 郡東岩瀬町長 山本 勇次
 同 俗 同 町 河上 林現
 同 町 金井直次郎
 同 町 中木庄太郎

菊の花越の海人家に匂ひけり
浦山宣藏

上野川郡東郷町

白菊の香や越の野にみちく
て
山家八十吉

同町

みそなはす白菊の香や高まりぬ
小泉君平

同町

白露の置きて錦の黄菊哉
明石正順

同僧侶町

白菊や越路も清く響るなり
北村康太郎

同町

曉星のしほし影置く野菊哉
百塚磯松

同町

白菊の一もと薫る伏屋哉
百塚庄太郎

同町

咲きそめし菊金色の房長し
盛山宗英

同僧侶町

白菊のにほひみちたる越の里
室谷辰太郎

同町

菊咲くや立山の空うら、かに
米田豊次郎

同町

御代の春

静心松千歳も御代の秋
金山元之

富山市泉町
士族

奉祝

行啓の御徳尊し豊の香
中山松次郎

四国波郡東太美村

奉迎

日の宮のみ蔭仰くや村雀
中根務白

富山縣工手

麗はしきみ蔭うつろふ神通川
同人

頌德表

臣覺平伏シテ以ルニ向ニ皇上本縣ニ臨幸シ給ヒシ以來茲ニ三十二載而シテ當時縣民ノ道路ニ俯伏シテ車駕ヲ迎ヘ奉リシ者今猶羽儀ノ輝煌ヲ語ル之ヲ聞ク者又已當時道路ニ俯伏セシノ懷アリ俱ニ千載ノ榮幸トシテ傾藎ノ心益深シ亦以テ大化ノ一端ヲ觀ルニ足レリ臣覺平誠惶誠忭頓首頓首欽ミテ維ルニ皇太子殿下剛健中正ノ德ト聰明睿知ノ才トハ之ヲ天ヨリ得給ヒテ夙ニ青宮ニ舛リ君親ノ愛ヲ極メ早ク辟雍ニ游ヒ道藝ノ奧ヲ悟リ給ヒ又聖圖ヲ輔益シ小民ヲ康濟セムコトヲ事トシ給ヒ晝夜ニ孜孜トシテ未タ嘗テ少クモ愆タリ給ハヌ或ハ煙霧ヲ冒シ或ハ波濤ヲ凌キ遠ク四方ニ至リ風ヲ觀俗ヲ察シ因リ以テ潛德ヲ發揚シ高年ヲ存問シ給ヒ寶席煖ルニ違アラヌ殿下ノ懿美盛行既ニ是クノ若シ故ニ中外心ヲ歸セサル者ナク皆以テ黃離ノ輝ヲ揚ケ前星ノ采ヲ耀カシ給フトナス而シテ今殿下忽チ本縣ニ臨マセラル是ニ於テカ縣民

皆歡呼喜忭相爭ヒ道路ニ俯伏シ屬車ノ清塵ヲ望ミ往往感極リテ泣ク者アリ
 是ニ由リテ之ヲ觀レハ縣民ノ他年殿下ヲ迎ヘ奉リシコトヲ語リテ懿美盛行
 ナ仰慕セムコト亦猶今日縣民ノ車駕ヲ迎ヘ奉リシコトヲ語リ傾藎ノ心益深
 キカコトクナラム之ニ加フルニ今日縣民殿下ノ懿美盛行ニ感激シ各自ヲ振
 勵セムコトヲ思フ故ニ此レヨリ後ハ風俗善ニ趨キ其ノ事業ノ如キモ亦必ス
 觀ルヘキニ至ラム 臣覺平既ニ盛明ニ遭逢シ又縣會議長タルノ故ヲ以テ清光
 ナ瞻拜スルコトヲ獲タリ恩榮實ニ大ニシテ歡喜極リナシ因リテ謹ミテ親聞
 ノ及フ所ヲ馨陳シ式テ頌詠ノ情ヲ摠フ 臣覺平誠惶誠忭頓首頓首謹ミテ言ス

明治四十二年九月三十日

富山縣會議長 臣森丘覺平上牋

行啓御日程

明治四十二年九月二十九日 富山 御着

金澤御發 富山御着

伏木 埠頭

伏木公會堂 (御晝餐)

富山縣會議事堂 (御四泊)

同 年九月三十日 富山御滯留

富山縣廳

縣立富山高等女學校

神通川鮎獵

歩兵第六十九聯隊 (御晝餐)

師範學校

富山縣物產陳列所

明治四十二年十月一日 魚津行啓

縣立富山中學校

市立富山商業學校

廣貫堂

織物摸範工場

魚津海岸(御晝餐)

魚津行在所

縣立魚津中學校

吳羽山

同年十月二日 高岡行啓

縣立高岡中學校

縣立工藝學校

高岡公園

高岡物產陳列所(御晝餐)

市立高岡商業學校

縣立高岡高等女學校

瑞龍寺

富山縣美術品展覽所

同年十月三日 富山御發

富山御發 靜岡御泊

富山縣立圖書館
富山縣立圖書館
富山縣立圖書館
富山縣立圖書館
富山縣立圖書館
富山縣立圖書館
富山縣立圖書館
富山縣立圖書館
富山縣立圖書館
富山縣立圖書館

明治四十二年十二月十日印刷
明治四十二年十二月十五日發行

富山縣

富山市立町拾七番地

印刷者 今泉安次郎

富山市立町拾七番地

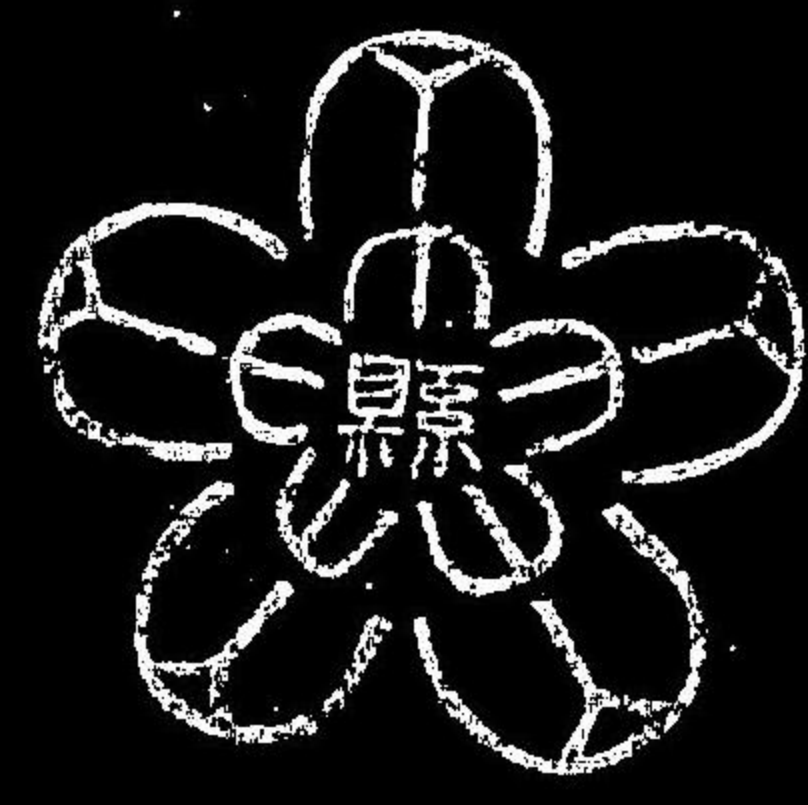
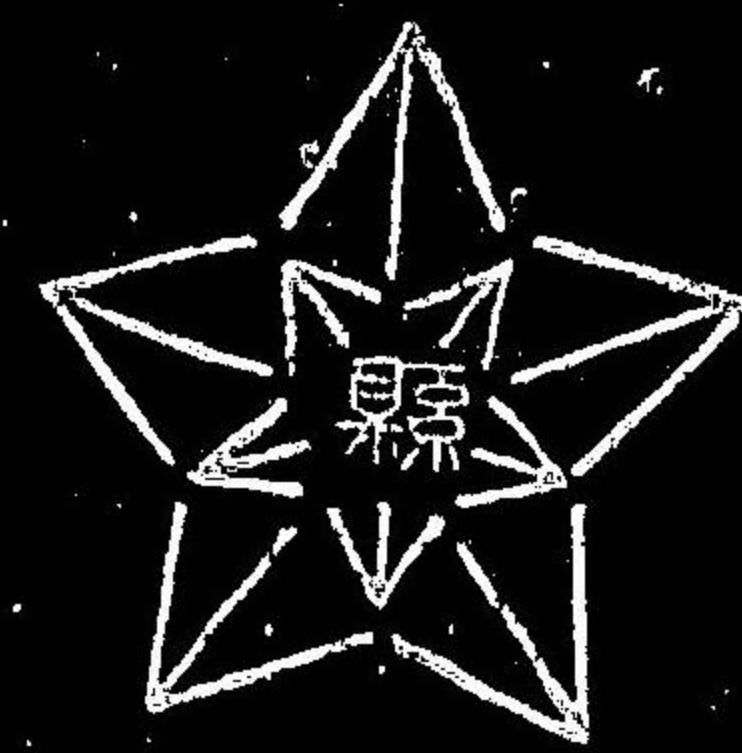
印刷所 今泉活版所

260
571

民國二十六年十一月十五日
由

第 號

功 錄
功 錄
功 錄



御巡幸
和歌
四十八首
祝詞
百首
祝詞
百首

御巡幸奉迎詠進

和歌

權大講義 白旗 大林 富山

民草のをひろぬ里もなりのりけり

君の行幸の深き恵よ

久米賞篤 同上

行幸あるここの田面の頼母しく

かけやす稲もみそなのすらん

近藤光普 同上

御車のみめぐりましてかこくも

ここの富山よけふの來ませり

行啓詠進

郡市	和歌	漢詩	俳句	計
富山市	二二	一一	二四	四七
高岡市	一五	一六	〇五	一一
上新川郡	一一	一一	二二	二四
中新川郡	一一	一一	一九	二二
下新川郡	三三	〇一	五九	三三
婦負郡	三三	〇七	四九	三七
射水郡	〇八	二二	〇四	三三
氷見郡	〇八	一一	〇四	二一
東礪波郡	三三	〇一	〇四	三六
西礪波郡	二四	〇三	〇七	三三
計	九九	五一	二〇	二八
頌徳表	〇	〇	〇	〇
壹章	〇	〇	〇	〇

行啓奉迎詠進

和歌

御車を迎へ奉りて

西礪波郡長
從六位勳六等

廣瀬昌柔

日の皇子のめくみの露と三越路の

あそ人草のその葉をゑまて

寄 菊 祝

同郡水島村
勳七等

筱岡貞次

ひのみまのめくみをうけて越路なる

さくも千とせにふふなららむ

御車を迎へ奉りて

同郡祝學

吉田佐市郎

ひのみまのめくみの露は草深き

野にも山にもかゝりけるるな